

病防第74号  
平成19年2月13日

各関係機関長様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報第1号について（送付）  
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

---

平成18年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成19年2月13日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害名：トマトすすかび病
- 2 発生物種：トマト
- 3 病原菌：*Pseudocercospora fuligena*(Roldan) Deighton

#### 4 発生確認の経過

平成18年10月、阿蘇市および阿蘇郡南阿蘇村の夏秋栽培トマトにおいて、トマト葉かび病に酷似した病害の発生が認められた。熊本県農業研究センター生産環境研究所において同定したところ、本県ではこれまで発生が確認されていない*Pseudocercospora fuligena*(Roldan) Deightonによるトマトすすかび病であると診断された。

#### 5 病徴

葉に発病し、初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色粉状のかびを生ずる。病斑は次第に拡大して、円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、かびの色も灰褐色から黒褐色に変わる。葉表には、葉裏よりやや遅れて不明瞭な淡黄褐色の病斑を生じかびを生ずるが、葉裏に比べて少ない（写真 ）。症状が進むと葉全体がかびで覆われ、ひどい場合には葉が枯れあがる。

病徴は葉かび病に酷似している。葉裏のかびの色がすすかび病の方が少し黒みが強い傾向があるものの（写真 ）、肉眼での明確な判別は難しい。しかし、葉かび病菌分生子が単胞もしくは2胞の紡錘形であるのに対し、すすかび病菌分生子は0～15個の隔壁を有する鞭状と形状に明確な違いがあり、顕微鏡で分生子を確認すれば容易に判別することができる（写真 ）。

## 6 発生生態

糸状菌の一種で、不完全菌類に属する。分生子は淡褐色、鞭状または円筒状で、先端は少しくびれ、小型の油胞がある。大きさは様々（ $13.3\sim 170.3\times 2.7\sim 5.6\mu\text{m}$ ）で0～15個の隔壁を有する。菌糸の発育適温は $26\sim 28$ 、分生子の形成適温は $18\sim 22$ 、分生子の発芽適温は $26$  付近である。本菌は被害植物の残さで越冬し、翌年の伝染源となる。

## 7 国内での発生状況

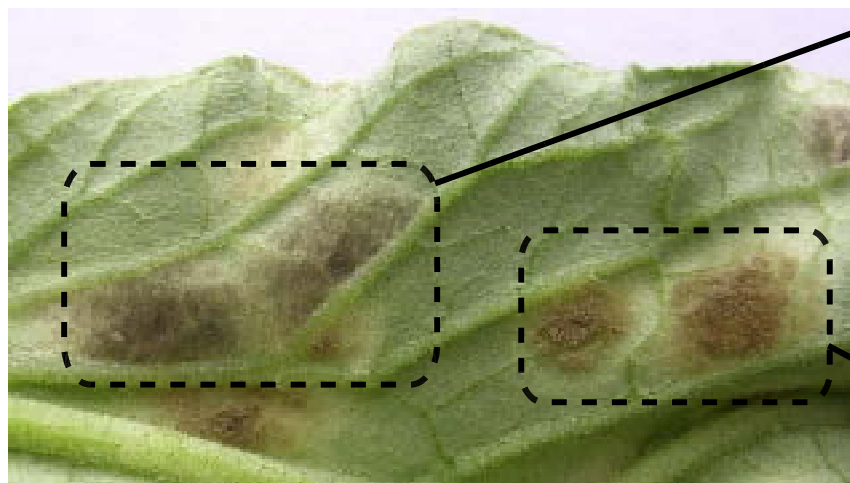
本病は平成8年に宮崎県で初発生が確認されて以来、1府11県のトマト、ミニトマトで発生が報告されている。

## 8 防除対策

- (1) 多湿条件で発病しやすいため、密植、過繁茂をさけ、施設内の換気を行う。
- (2) 発病葉、被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。



写真：すすかび病の葉の病斑  
（左：表、右：裏）



写真：すすかび病と葉かび病の葉裏の病斑  
（左囲：すすかび病、右囲：葉かび病）



写真：すすかび病菌の分生子



写真：葉かび病菌の分生子

特殊報は、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto>）に公開している（カラー写真使用）。